

両沼地方稲作情報 第1号

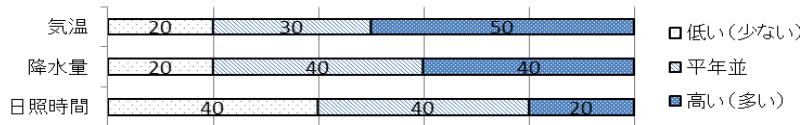
平成30年4月11日

発行： 福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
 " 金山普及所 (電話0241-54-2801)
 JA会津よつば みどり地区本部、各営農経済センター

1 気象情報(平成30年4月5日 仙台管区气象台発表「東北地方1か月予報」より抜粋) <4月7日~5月6日までの天候見通し>

天気は数日の周期で変わりますが、平年より晴れが少なく、平均気温は高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

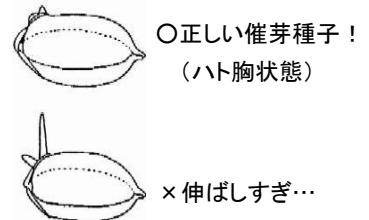


2 催芽~出芽までの管理

(1) 催芽

催芽温度はもみ枯細菌病対策として28℃とし、ハト胸状態まで均一に催芽しましょう。催芽時は、内部まで温度のムラがないようにしましょう。種籾を袋に詰めすぎると広がらず、温度のムラができる原因となります。

※30℃以上ではもみ枯細菌病が発生しやすくなります！



(2) 播種

植え付け時の苗の種類に応じて、適正な播種量と育苗日数を守りましょう(表1参考)。

表1 播種量と育苗日数の目安

苗種	播種量(乾籾 g/箱)	育苗日数(日)	葉数(葉)
稚苗	200	20~25	2.5 前後
中苗	100	30~35	3.5 前後

播種時に苗立枯病の防除を行う場合は、病原菌により効果のある薬剤が違うので、下の表2を参考に薬剤防除しましょう。

表2 苗立枯病に登録のある薬剤(例)

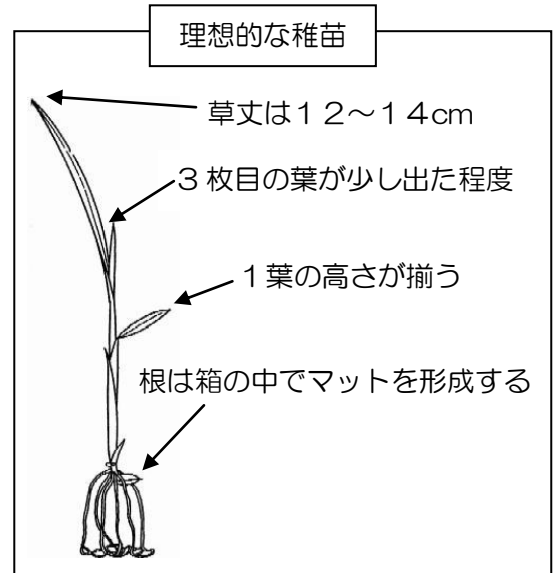
農薬名	適用病害虫名 使用目的	使用時期	使用方法	使用回数
ダコニール1000	苗立枯病(リゾープス菌)	は種時から緑化期(但し、は種14日後まで)	育苗箱1箱あたり500~1000倍液0.5L または、1000~2000倍液1Lを土壌かん注する。	2回以内
タチガレエースM液剤	苗立枯病(フザリウム菌、ピシウム菌)	は種時または発芽後	育苗箱1箱あたり500~1000倍液0.5Lを土壌かん注する。	1回
	ムレ苗防止 根の生育促進 移植時の活着促進	は種時	育苗箱1箱あたり1000倍液1Lを土壌かん注する。	
ダコレート水和剤	苗立枯病(リゾープス菌)、苗立枯病(トリコテルマ菌)、苗立枯病(フザリウム菌)	は種時から緑化期(但し、は種14日後まで)	育苗箱1箱あたり800~1200倍液1Lを土壌かん注する。	2回以内

※農薬を使用する際は、必ずラベルをよく読んで、使用基準を守りましょう。

(3) 出芽

育苗器を利用する場合は温度を 28℃に設定し、それ以上の高温は避けましょう。 芽の長さは5mm～10mmを目安に伸びすぎないように注意しましょう。

被覆資材を利用した無加温出芽では、28℃目安の温度管理をさらに注意深く行いましょう。



3 緑化～硬化期の管理

(1) 緑化(苗が緑色を帯びるまで)

白化苗防止のため、1葉期までは強い光に急に当てないようにしましょう。昼間 25℃、夜間 15℃を目安として高温による苗ヤケと、低温によるムレ苗を防ぎましょう。

播種時に苗立枯病防除をしていない場合はこの時期に実施しましょう。

(2) 硬化(1.5葉期から)

苗が緑色になったら平張りをはずして十分日光に当てます。昼 25℃、夜間 10～15℃を目安に、徐々に自然環境に順応させましょう。

(3) 温度管理

ハウスやトンネル内の温度計は苗の高さに設置して温度管理を行います。晴天時はハウス内の温度が朝は急に上がり、夜は急に下がるので、ハウスの開け閉めをこまめに行いましょう。

**◎日中の育苗ハウス内等の高温による苗ヤケや病害虫の発生にご注意ください！
適正な温度管理により、健苗育成に努めましょう！**

(4) 灌水

原則1日1回、朝にたっぷりと灌水します。乾いた場合には昼頃に追加灌水します。夕方の灌水は地温を下げ、根張りを悪くするので行わないようにしましょう。

4 育苗期に注意すべき病害

表3 育苗期の病害について

病名	発生の様子(症状)	防除法、対処法
リゾープス属菌による立枯病	出芽～緑化時に箱全体が白カビで覆われる。	出芽期 32℃以上の高温、緑化期以降 10℃以下の低温、過湿を避ける。 ダコニール 1000 による薬剤防除(表2参照)。
ピシウム属菌による立枯病	地際部にはカビが見えない。苗が円形またはドーナツ状に枯れる。	特に 10℃以下の低温を避ける。 タチガレエース M 液剤による薬剤防除(表2参照)。
ピシウム属菌による立枯病(ムレ苗)	急にしおれ、根の活力が弱り、葉がコヨリ状に巻いて枯死する。	5℃以下の低温にあてない。霜注意報が発令された場合、早めにハウスの裾を閉め、保温に努める。 タチガレエース M 液剤による薬剤防除(表2参照)。
トリコデルマによる立枯病	生育が悪く、苗は黄化し、後に枯死する。床土表面や糞に白い菌糸塊や青緑色の孢子塊が見られる。	汚染土壌を床土に使用しない。床土の過乾燥を避ける。 ダコレート水和剤による薬剤防除(表2参照)。
もみ枯細菌病	芽は褐色になり、腐敗・枯死する。 葉齢が進んだ状態で感染すると、新葉は腐敗し、引っ張ると抜けるようになる。	種子伝染病のため、健全糞の使用、種子消毒による防除が基本である。 催芽・出芽は 28℃以下に管理し、ハウス内は 30℃以上の高温にならないようにする。 発病がみられた箱は、発病していないように見える部分も含めてすべて廃棄し、移植しない。

☆春の農作業安全運動重点推進期間中です！〔4/1～5/31〕
安全な農作業を心掛けましょう。



御不明な点は最寄りのJA支店または普及所までお問い合わせください。